

3. 維持・管理

- 半年に1度を目安に定期点検を行ってください。
- 定期点検などの際は、誤作動の原因となるものが周囲の環境にないかご確認ください。
※炎センサーは紫外線を高感度で検出しますので、炎以外でも紫外線を発するものから直射や反射にて検出する可能性があります。
- 更新推奨期間 10 年を経過した製品は、経年劣化による性能の低下や故障のリスクが高まることが懸念されます。設置環境の影響などにより、定期点検時に異常（欠損、錆、傷、変形等）が確認された場合は、更新推奨期間の期間内であっても製品更新をご推奨いたします。
- 交換推奨期間を過ぎた消火設備は、交換することを推奨します。
交換推奨期間は、設置環境の影響を受けるため、一概に述べることはできませんが、製造後10年です。

定期交換推奨部品	対象構成機器	推奨時期	数量／台
	起動部(ガス発生器付)	5年	1個
消火薬剤放出時交換部品	対象構成機器	数量／台	
	消火剤容器(CO2)	1本	
	起動部(ガス発生器付)	1個	

※定期交換推奨部品は推奨時期毎を目安に交換することを推奨します。
※消火薬剤放出時交換部品は消火薬剤を放出した際に交換が必要な部品です。これらを交換しないと再使用できません。

⚠ 注意

- ⌚ 消火装置の分解・改造はしないでください。
分解・改造は破裂、誤作動、不作動の原因となるおそれがあります。
- ⌚ 掃除の際は、有機溶剤（ガソリン、ベンジン、シンナー等）や中性洗剤等を使用しないでください。
消火装置を掃除するときは、柔らかい布等で、きれいに拭いてください。
- ❗ 異常な点を見つけたとき、整備、交換の際は、販売店、または当社のお客さま相談室にご連絡ください。

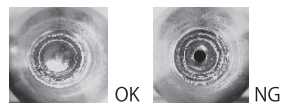
定期点検について

点検前準備

- ・炎センサーの電源を切る。
- ・起動部コネクタ（A）と起動部コネクタ（B）をはずす。
必ず次の1）、2）の手順で実施ください。

1）消火剤容器点検：

- ①：電源が入っていないことを確認する。
- ②：起動部より消火剤容器を回して外す。
- ③：外観に腐蝕等がないことを確認。
- ④：重量を測定し、TW 刻印値の ±10g 以内にあることを確認。
- ⑤：消火剤容器上面の封板に穴がないことを確認。
- ⑥：起動部に消火剤容器を手でしっかり回して組付ける。



2）炎センサー点検：

- ①：起動部コネクタ（A）に付属の試験コネクタを接続する。
- ②：設置後の動作確認の手順で実施する。
- ③：炎センサーが確実に復旧したことを確認する。
（炎検出表示灯（赤）：消灯、電源灯（青）：点灯）
- ④：起動部コネクタ（A）から試験コネクタをはずし、起動部コネクタ（B）を接続する。
起動部と接続した状態で電源を入れると、直後に消火剤が放出される恐れがあり危険です。
上記手順で実施ください。

4. 作動後の処置

消火剤放出後、再使用する場合は起動部組や消火剤容器の交換が必要です。
販売店、または当社のお客さま相談室にご連絡ください。

5. 保証期間

保証期間はご購入日から1年間です。本説明書に従った使用状態において、保証期間内に不具合を生じた場合は、当該製品の無料修理または無料にて新しい製品とお取替えいたします。
[保証期間を過ぎた製品については、お客さまのご要望により有料修理させていただきます。]

6. お問い合わせ

ご質問やご不明な点がございましたら、販売店、または当社のお客さま相談室にお問い合わせください。

お客さま相談室 TEL 0467-85-1210

モリタ宮田工業 株式会社

〒253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-1-1
TS02646003 25.10

もくじ

取扱説明書

分電盤用自動消火装置 フラッシュアイ



モリタ宮田工業 株式会社

1. 仕様	1 ページ
2. 設置について	2・3・4 ページ
3. 維持・管理	4 ページ
4. 作動後の処置	4 ページ
5. お問い合わせ	4 ページ

この度は、分電盤用自動消火装置フラッシュアイをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本商品は分電盤内の初期消火を目的とした自動消火装置です。
炎センサーが異常な紫外線の発生を検出し、消火剤を放出します。
安全にご使用いただくために、本書を必ずお読みください。
お読みになった後は、本書を大切に保管してください。

安全上のご注意

誤った使い方をすると、破裂等により重大な人身事故が発生する恐れがあります。
正しく安全にご使用ください。
本書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから、お読みください。

警告 死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。

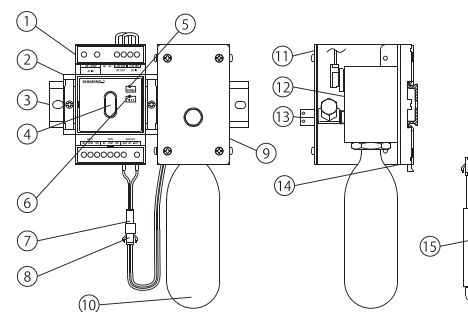
注意 傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。

この表示は、してはいけない「禁止」内容です。

この表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

1. 仕様

※構成例 消火剤容器 1 本



炎センサー	紫外線検出方式
消火剤	二酸化炭素60g×1~3本
電源	AC85~240VまたはDC24V
質量	約1,100(1本)~2,900g(3本)
寸法	高さ約200×幅約150~290×奥行約90mm
移報出力	無電圧C接点2組 (接点容量 AC250V/5A DC24V/5A)
使用温度範囲	-10~60℃(結露・氷結の無きこと)

各部名称

- ①炎センサー ②DIN レール止め金具 ③DIN レール ④受光部 ⑤電源灯(青) ⑥炎検出表示灯(赤)
⑦起動部コネクタ（A） ⑧起動部コネクタ（B） ⑨消火剤容器ラベル ⑩消火剤容器
⑪起動部カバー ⑫起動部組 ⑬放出口組 ⑭DIN レール取付板 ⑮試験コネクタ

2. 設置について

次の手順に従って設置してください。

⚠ 警告

- ❶ この消火装置の消火剤容器の内部は高圧です。強い衝撃を与えないでください。
- ❷ 高温となる場所に保管、設置しないでください。

1 本体ユニットの設置

付属の DIN レールごと設置、または付属の DIN レールから炎センサーと起動部等を取り外し、盤内の DIN レールに取り付けてください。

⚠ 注意

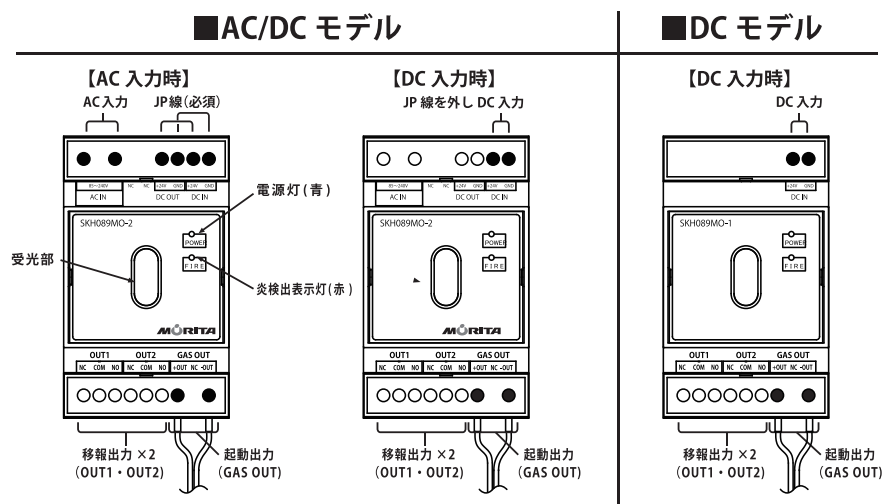
- ❶ 炎センサーは紫外線を高感度で検出しますので炎以外にも直射や反射にて検出するものがあります。設置の際は周囲の環境等にご注意ください。

誤作動の原因(炎以外で紫外線を発するもの)

- ハロゲンランプ
- 溶接の火花や電気スパーク
- 水銀灯などの放電灯
- 雷などの放電現象
- 殺菌灯および殺虫灯
- その他紫外線を発するもの

2 電源線の接続(炎センサー外観)

使用される電源に合わせて電源線を接続してください。(AC 入力 or DC 入出力)



⚠ 注意

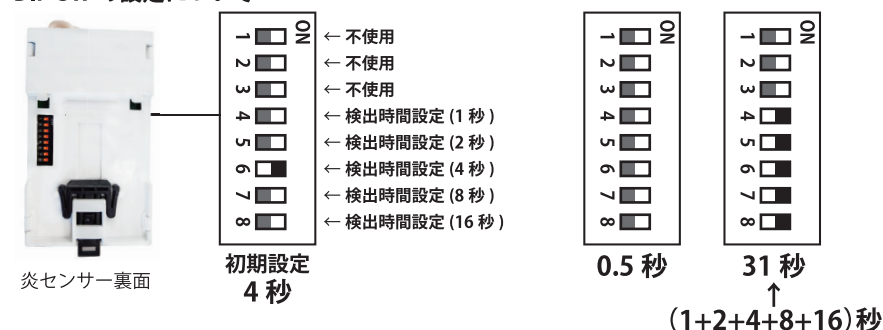
- ❶ 電気工事を伴う場合は、有資格者(電気工事事)が行ってください。
- ❷ 配線作業は電源が遮断されていることを確認して行ってください。
- ❸ 端子の(+)と(-)の極性を間違えないようご注意ください。

3 検出時間の設定

炎センサーは最短 0.5 秒で異常な紫外線を検出し、出力動作をおこないます。検出時間は、炎センサー裏面の DIP-SW にて設定することができます。設定したい秒数に対応した DIP-SW を ON にしてください。(点検時は、設定した秒数連続で紫外線照射をつづけてください。)

DIP-SW の設定秒数は電源の投入時に読み込まれます。変更した場合は必ず電源を再投入してください。工場出荷時は 4 秒(DIP-SW6)のみ ON に設定されています。

DIP-SW の設定について



4 出力動作について

炎センサーが紫外線を検出し、出力動作をした場合は、移報出力(無電圧 C 接点 2ヶ所)と起動出力が出力されます。移報出力は紫外線が検出されなくなつてから約 30 秒後まで保持されます。



5 設置後の動作確認

⚠ 注意

- ❶ 電源を入れる前に炎センサー側の起動部コネクター(A)に付属の試験コネクターを接続してください。起動部と接続した状態で電源を入れると、直後に消火剤が放出される恐れがあり危険です。次の手順で動作確認し、炎センサーが確実に復旧したこと(炎検出表示灯(赤): 消灯、電源灯(青): 点灯)を確認の上で試験コネクターを外し、起動部コネクター(B)を接続してください。

確認項目	操作方法	表示および作動内容
結線部	配線は問題なく接続されているか。	外観チェックをおこなう。
起動部コネクター	試験コネクターが接続されているか。	外観チェックをおこなう。
電源	電源を投入する。	電源灯(青)が点灯する。
作動試験	受光部に紫外線投光器等で紫外線を照射しつづける。	検出時間設定した時間経過後、炎検出表示灯(赤)が点灯し、試験コネクターが点滅(1回)する。
復旧確認	紫外線の照射を止めてから約 30 秒後自動復旧する。	約 30 秒経過後、炎検出表示灯(赤)が消灯し、移報出力が復旧する。